

(WindowsNT&2000) HFNetChk & QChain を利用しよう

最終更新 2002年5月8日

< 概要 >

堅苦しい内容なので端折ってよんでください

HFNetChk (Network Security Hotfix Checker) は、マイクロソフトが Windows と Internet Explorer を提供開始後発生した問題点を修正するプログラム、「Hotfix (ホットフィックス)」の適用・未適用を調べるツールです。

WindowsNT や 2000 は、発売されてから時間が経過していて、現在サービスパック (SP) やセキュリティロールアップパッケージ (SRP) といった、複数の修正プログラムを 1 つにまとめたものが提供されています。

しかし、SP や SRP はある程度の修正プログラムがまとまらないと提供されないため、修正プログラムの入手までに時間がかかります。

マイクロソフトは、発生した問題に対してその都度、Hotfix と呼ばれる修正プログラムを発表していますが、その数は非常に多いため、必要なものをパソコンに確実に適用するのは難しいのが現状です。

HFNetChk では、難しい Hotfix の適用状態を調査し、なにが必要かを調査します。

Qchain は、複数の Hotfix を 1 回の再起動で実行可能にするツールです。

通常 Hotfix は 1 つ実行すると、再起動をする必要があります。

複数の Hotfix を実行する場合には、再起動だけでかなりの時間を費やすことになります。サーバーとして稼働しているパソコンでは、長時間のサービス停止を避ける必要もあります。

Qchain は、時間のかかる部分を省略することを可能にし、きわめて短時間で必要な Hotfix を適用することを可能とします。

HFNetChkの利用方法

1. マイクロソフト社の HP からダウンロードする必要があります。

「HFNetChk」というキーワードで検索するか、ここをクリックしてください。

Nshc332.exe というファイルをダウンロードしましょう。

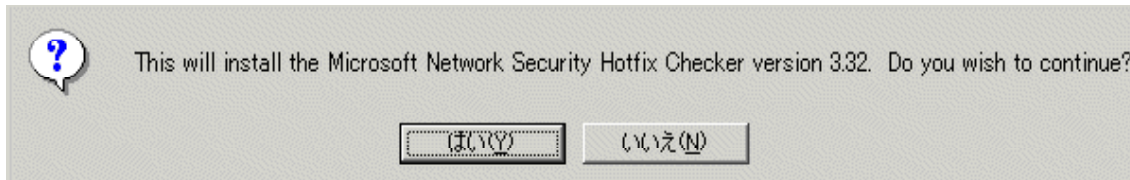
2. 同ページにある、XML データベース「stksecure.exe」をダウンロードしてください。

この XML データベースに、Hotfix の最新情報が入っています。

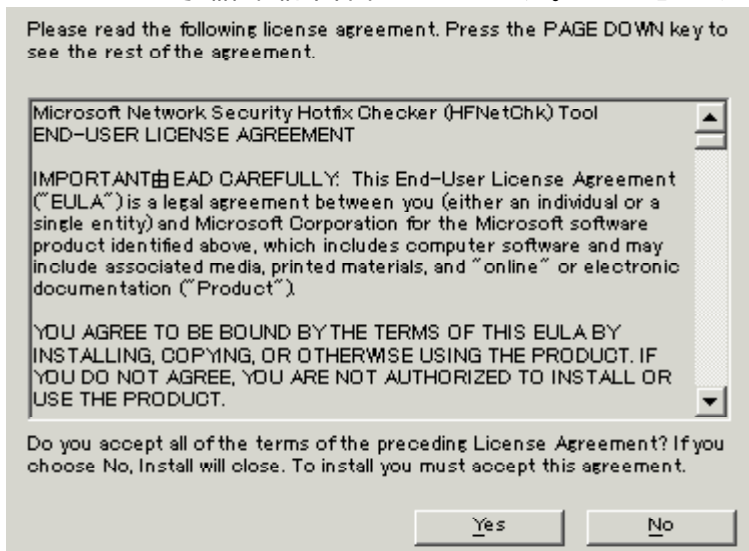
3. ダウンロードしたそれぞれのファイルを実行して展開します。

HFNetChk 本体の展開 (Nshc332.exe)

Nshc332.exe を開く (ダブルクリック) と確認画面が表示されますので「はい」を選びます。

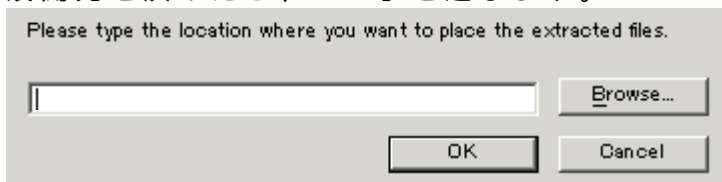


ライセンス承諾確認画面になります。「Yes」を選びます。



展開先を問い合わせてきます。「Browse」をクリックして、展開先を決めます。

展開先を決めたら、「OK」を選びます。



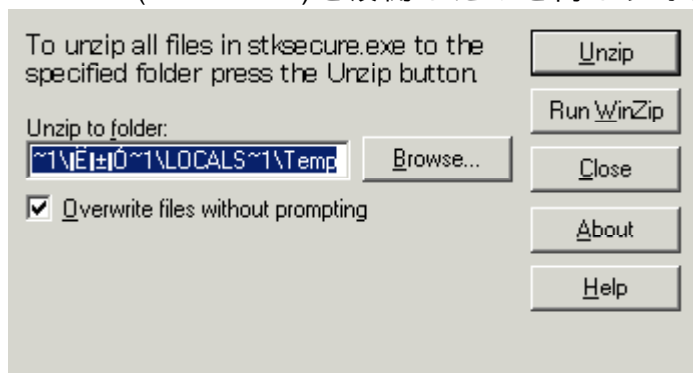


HFNetChk の利用ができるのは、WindowsNT / 2000 / XP ですといった内容が表示されます。「OK」をクリックしてください。

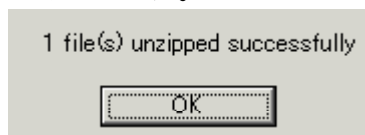


これで、
HFNetChk License.txt
readme.txt
Readmefirst.txt
hfnetchk.exe

の4つのファイルが新しく作られます。
XML データベース (stksecure.exe) の展開
stksecure.exe を開く (ダブルクリック) と展開先の設定と確認画面が表示されます。
「Browse」をクリックして展開先を選びます。
HFNetChk (Nshc332.exe) を展開したのと同じフォルダを選択しましょう。



展開先を選択後、「Unzip」をクリックします。
1つのファイル (stksecure.xml) が解凍されたことの確認を求めてきますので、「OK」をクリックします。



最初の画面にもどるので、「Close」を選んで画面を閉じます。

これで、HFNetChk を利用するための下準備が整いました。

つぎはHFNetChkの利用方法です。

コマンドプロンプトを開く

コマンドプロンプトを開くには、2つの方法があります。

簡単だと思う方を選んでください。

スタート プログラム アクセサリ コマンドプロンプト

または、

スタート ファイル名を指定して実行 「cmd」を入力し「OK」をクリック

シンプルな画面、コマンドプロンプト画面（DOS窓）が起動します。

ここからは、キーボード操作だけになります。

下の画像を参考に入力してみてください。

！注意！ここからの説明は

先ほど展開したファイルは、すべて「Cドライブ」の「hfnetchk というフォルダ（新しく作成したフォルダ）」に入っている状態としての説明です。

デスクトップに展開している場合には、場所指定が大変なので、ドライブの直下にフォルダを作成した方が楽ができるでしょう。

また、フォルダの名前は、アルファベット利用しスペースなどの空白は利用しないようにしましょう。

コマンドプロンプト画面では、使い慣れたIMEは利用できません。


入力が必要ば文字は、**太文字**の部分です。

入力したら、「Enter」を押してください。

C:¥>cd hfnetchk（読みたいファイルがあるフォルダの位置を指定します）

C:¥hfnetchk>（hfnetchkのフォルダに移動した状態）

C:¥hfnetchk>hfnetchk.exe -x stksecure.xml（HFNetChkの実行）



```
Microsoft Windows 2000 [Version 5.00.2195]
(C) Copyright 1985-2000 Microsoft Corp.

C:¥>cd hfnetchk

C:¥hfnetchk>hfnetchk.exe -x stksecure.xml
```

プログラム（HfNetChk）が実行され、しばらくすると次のような表示になります。

.....
Done scanning コンピュータ名
Please use the -v switch to view details for
Patch NOT Found, Warning and Note messages

コンピュータ名

* WINDOWS 2000 SP2
Patch NOT Found MS00-79 JP276471
NOTE MS01-022 JP296441

* Internet Explorer 6 Gold

INFORMATION

All necessary hotfixes have been applied.

「 Patch NOT Found 」は、Hotfix が適用されていない状態で、セキュリティ番号が「MS00-79」、サポート技術情報番号が、「JP276471」にあることを表しています。
また、「NOTE」表示は、XML データベースに情報が含まれていない場合などに発生するようです。検索でサポート技術情報番号を入力すると、情報があると思いますので参照してください。

QChain の利用方法

1. QChain は、サポート技術情報番号「JP296861」で公開されていますのでダウンロードします。
2. ダウンロードしたファイルを実行して展開します。

展開すると、

q296861_W2k_spl_x86_en.exe qchain.exe

のファイルが展開されます。

Hotfix を保存するフォルダと同じフォルダに QChain を保存します。

準備

HFNetChk を利用して、未適用の Hotfix を調べ、全てダウンロードします。

Windows2000/XP 省略可能

ファイルのプロパティを開き、デジタル署名の年月日を控えます。

ファイル名を変更して、「20010420_Q276471_w2k_sp3_x86_JA.EXE」などと年月日をファイル名に使いします。月や日数が1桁の場合は、「0」を付加して全体の桁をそろえましょう。これは、QChain が機能しなくても、Hotfix の適用原則「公開が古いものから順に適用」を守れるために行います。(文字列ソートで日付の古い順になるようなればOKです)

バッチファイルの作成

複数の Hotfix を再起動せずに、適用させるためにバッチファイルを作成します。

「コマンドプロンプト」を開いて次のコマンドを入力します。

！注意！ここからの説明は

先ほど展開したファイルは、すべて「C ドライブ」の「hotfix というフォルダ(新しく作成したフォルダ)」に入っている状態としての説明です。

入力が必要ば文字は、**太文字**の部分です。

入力したら、「Enter」を押してください。

C:¥>cd hotfix (読みたいファイルがあるフォルダの位置を指定します)

C:¥hotfix> (hotfix のフォルダに移動した状態)

C:¥hotfix>dir/b *.exe /s>hotfix.bat (拡張子が「exe」のファイルを hotfix.bat というファイルに書き出します)

```
Microsoft Windows 2000 [Version 5.00.2195]
(C) Copyright 1985-2000 Microsoft Corp.

C:¥>cd hotfix

C:¥hotfix>dir/b *.exe /s>hotfix.bat
```

以上の作業で「hotfix.bat」というファイルが Hotfix を保存しているフォルダに作成されます。
同じファイル名があっても、確認せずに上書きをしますので注意してください。

コマンドプロンプトを閉じる

作業が終了したら、コマンドプロンプトを閉じます。

右上の「×」で閉じる方法や、左上のコマンドプロンプトアイコンから閉じるを選ぶ方法もありますが、せっかくなのでキーボード操作で終了してみましよう。

```
C:¥hotfix>exit
```

「exit」と入力して Enter キーを押せば、コマンドプロンプト画面は閉じることができます。

編集作業

メモ帳やエディタを起動して「hotfix.bat」を編集します。

ファイル名の最後に、「.exe -z -m」を追加します。

最終行に、Qchain.exe を書き込み保存します。

(例) 赤字は追加する内容

```
C:¥hotfix¥20010418_q296185_w2k_sp3_x86_ja.exe -z -m
```

```
C:¥hotfix¥20010420_Q276471_w2k_sp3_x86_ja.exe -z -m
```

```
C:¥hotfix¥qchain.exe
```

Qchain 実行

「コマンドプロンプト」を開いて次のコマンドを入力します。

```
C:¥>cd hotfix
```

```
C:¥>hotfix.bat
```

hotfix.bat に書き込まれた、Hotfix の適用を自動実行しますので、終了したら再起動しましよ
う。

以上で、Qchain を利用した Hotfix の一括適用は終了です。

利用の注意

大変便利なソフトなのですが、IE5.5SP2 向け q312461.exe など一部の Hotfix は、紹介した方法では、利用できませんでした。「Win32 Cabinet Self-Extractor」タイプのものは、単独で実行する必要があるようです。

エクスプローラで表示したときに、ファイルの種類が「コマンドプロンプト」向け? になるものは利用可能のようです。

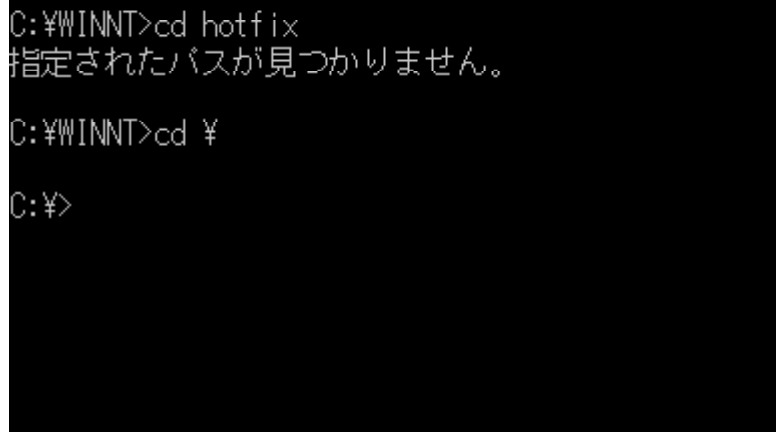
特定の Hotfix を適用しないと、利用できない Hotfix もあるようなので、再度「HFNetChk」を行って、Hotfix の適用に漏れがないか再確認をしましょう。

補 足

コマンドプロンプトで、入力したら「指定されたパスが見つかりません」と表示される時には、入力した文字が間違っている（入力ミス）か、すでに別のフォルダが指定されている状態のときがあります。

その場合には、「cd ¥」と入力します。（下の画像参照）

C:¥>となっていれば、OK です。



```
C:¥WINNT>cd hotfix
指定されたパスが見つかりません。

C:¥WINNT>cd ¥

C:¥>
```